

■震災復興祈念イベント「地上のプラネタリウム」ーロウソクの灯りに夢・希望を映してーを開催

1 月 23 日、学園都市駅前の「ユニバードーム」にて復興への願いを込めたロウソクを灯し、夜の星座を描くイベント「地上のプラネタリウム」を開催した。

このイベントは、教職科目「総合演習」グループの学生たちが企画したもので、阪神・淡路大震災の際に全国から受けた支援に対する感謝の気持ちと、東日本の被災地への支援の輪を広げることを目的としたものである。地元の子どもたちが自分の夢を書いたガラス瓶を星座のように配置。ロウソクに灯りがともされると、暗い地面に星座が次々と浮かび上がり、幻想的な空間をつくりだした。

3 月 4 日に仙台市立荒浜小学校に訪問し、当日集められた募金（13,005 円）を贈呈した。



■ボランティアコーナーの西区善行青少年の受賞とボランティア支援の拡充

本学では、学生がボランティア活動に関心をもち、活動に踏み出すための情報提供や活動の支援を行うために2006年よりボランティアコーナーを設置している。同コーナーでは、ボランティアコーディネーターやボランティア経験のある学生スタッフがボランティア情報の提供、相談、指導等の活動支援を行っている。

2月3日に、同コーナーが主体となって行っている、お年寄りと学生との交流会「学園陽だまりサロン」と、障がいのある子どもとの遊びの会「なかよしのお楽しみ会」が、「西区善行青少年」として表彰された。

また、8月には、大規模災害におけるボランティア活動の支援制度が創設された。この制度はボランティアの活動の参加に必要な交通費・宿泊費の一部を助成するものである。今年度は東日本大震災がボランティア活動支援対象とされ、3名の学生がこの制度を利用してボランティアに参加した。



■ロゴマークの制定

本学では、教職員や学生、OB 等関係者の連帯意識を強化し「公立大学法人 神戸市外国語大学」ブランドをよりいっそう高めていくとともに、本学を広く社会に向けてアピールしていくため、ロゴマークを制定した。2012 年 4 月 1 日から 5 月 31 日まで公募を行ったが、353 人から応募があり、550 点の作品が集まった。これらの作品を学内選考により最終候補 6 作品に選定し、教職員・学生・OB 会等に実施したアンケートにより最優秀作品を決定した。

このロゴマークは地球儀や舵、方位磁石をモチーフに国際都市神戸から世界をめざす外大をイメージしている。



■第1期中期計画の評価と第2期中期計画の実施

2007年度に法人化した本学は毎年度、6カ年の中期計画の進捗について、神戸市公立大学法人評価委員会の評価を受け、結果を公表されることとなっている。2012年度に終えた第1期中期計画の業務実績評価としては、全体として「順調に進捗している」との結果となった。特に、カリキュラムの見直し、就職支援体制の整備、外部研究資金の導入促進、小学校の英語教育支援、公費派遣留学制度の充実の5項目で、「S(特筆すべき進捗)」と高い評価を受けた。

2013年度からスタートした第2期中期計画は、2016年度に創立70周年を迎えることを契機とし、大学の基盤となる教育や学術研究を充実させるとともに、学生の主体的な学修や留学、ボランティア、就職など、大学生活を通じて段階的に成長できるよう、総合的な学生支援の制度や環境を整備していくことを目標としている。このなかで、国際都市である神戸市の大学として、海外の大学などとの国際交流提携先をさらに拡充することに加え、大学と地域とのつながりの創出に努め、人文社会科学にわたる幅広い知見を活かし、神戸の行政や地域、企業、学校園などとの連携を深めていく。

2013年4月1日からは、船山伸他理事長兼学長、中野潤一総務担当理事兼事務局長、新野緑学務担当理事兼学生支援部長、指昭博学術担当、国際交流・地域貢献担当理事兼外国語学研究科長・外国語研究所長の体制で取り組んでいく。

■海外インターンシップ制度を創設

キャリアサポートセンターによる就職活動支援として、学生に実践的な就業体験の機会を与えるために、国内企業でのインターンシップの充実を図っている。その一環として、国際的に活躍しておられる本学卒業生の荻野正明(おぎの まさあき)氏の協力を得て、本学で初の海外インターンシップ派遣プログラム「city'super 香港インターンシップ派遣プログラム」を創設した。

派遣先企業は、荻野氏が会長を務められる「フェニックスグループ」の参加企業のひとつである City Super Ltd. (設立1996年。従業員1,500人。本社香港)。派遣場所である city'super は、City Super Ltd.が香港を中心に展開するブランドのひとつで、海外からの多彩な輸入食品等を取り扱う小売業である。約4週間のプログラムであり、商品の仕入れから店頭にいるプロセス(商品計画・発注、物流プロセス、店舗販売)を経験する。

2013年8月に第1期生が派遣された。参加者からは「このグローバル化が進む世界の中で、自分はどのような役割を果していこうかということを改めて考えさせてくれるものとなりました。」「言葉を学ぶというよりも、何とか相手にわかりやすく伝える姿勢が大事だと思いました。」といった感想が寄せられた。



■総合文化コース芝田准教授によるワカ・パルティータ神殿遺跡の壁画発掘

8月、総合文化コース 芝田准教授が、ペルー北部のワカ・パルティータ神殿遺跡で壁画2面を発見した。この遺跡は約3000年前のものであるが、これほど保存状態のよい壁画が多量に残っていることは珍しく、当時の世界観や権力者の位置づけなどを解明するための貴重な資料とされている。今回の発見については、ニュース番組や新聞に記事が掲載されるなど、各種メディアで取り上げられた。

今回の発見に際して、芝田准教授から「3000年前の壁画が、これほど多量かつ綺麗に残された遺跡は他にありません。世界観や、その中で権力者がどのように位置づけられていたか解明するための奇跡的な資料です。発見の重要性を再確認し、研究者魂が震えました。」とのコメントが寄せられた。



■日本言語学会第 147 回大会の開催

11 月 23 日と 24 日の 2 日間、本学にて日本言語学会第 147 回大会が開催された。日本言語学会は言語の科学的研究の進歩・発展に寄与することを目的として設立された学会である。現在、2,000 余名の会員が所属しており、特定の理論的枠組みやアプローチにとらわれず、また研究対象も日本語を軸として世界の諸言語に及ぶ学問的な多様性に富んでいることが特徴。学会の大会は、春と秋の年 2 回開催され、本学での開催で 147 回目となった。2 日間で 560 名の研究者が参加し、理論的研究から方言や世界の少数言語のフィールドワークに基づく記述的研究や死語を扱う文献言語学的研究まで、多様なテーマが取り上げられた。



■市教委・神戸市 ALT（外国人英語指導助手）との協力事業の拡充

神戸市教育委員会と本学は、両者の教育・研究の充実及び発展に資することを目的とした、連携協力に関する協定を 2008 年に締結し、さまざまな事業に取り組んでいる。今年も神戸市教育委員会と連携するとともに、神戸市 ALT との協力した新しい企画事業を行った。

【神戸市教育委員会との連携事業】（ALT との連携事業のみ抜粋）

・神戸イングリッシュ・フェスティバル

1 月 26 日に第 1 回神戸イングリッシュ・フェスティバル、11 月 16 日に第 2 回神戸イングリッシュ・フェスティバルが開催された。神戸市立中学校 11 校と市内外国人学校から第 1 回は 4 校、第 2 回は 3 校から中学生が参加し、英語によるプレゼンテーション大会が本学の大ホールで開催された。第 1 回は約 300 名、第 2 回は約 400 名の方の参加があった。テーマは両日とも「KOBE, MY TOWN（わが町、神戸）」で、神戸の歴史や六甲山の保全活動の流れ、地域の魅力や名産物など、多彩な発表が繰り広げられた。当日は、ALT が進行役を務め、歌やコントで盛り上げた。



・イングリッシュサマースクール

8 月 21 日～23 日の 3 日間、中学生が、ALT や本学学生と英語を通して交流し、コミュニケーションの大切さ、楽しさ、難しさを体験することを目的としイングリッシュサマースクールを開催した。英会話やゲーム、ダンスなどの ALT によるプレゼンテーションや本学ロシア学科・中国学科・イスパニア学科の学生による国や文化の紹介などを行った。



【神戸市 ALT との連携事業】

・TEDxKCUFS

10 月 2 日、三木記念会館にて ALT の協力を得て TEDxKCUFS を開催した。当日は、3 つのビデオプレゼンテーション (TED Talk) を視聴し、それらについて ALT と学生がグループディスカッションを行った。参加した学生からは「プレゼンに感動し、人生について考えるきっかけになった。またぜひ参加したい。」「普段は交流のない ALT の先生方や、他の学科・クラスの学生と話ができて貴重な機会となった。」といった声が寄せられた。



TED は価値あるアイデアを世にひろめることを目的とするアメリカの非営利団体で、プレゼンイベント「TED CONFERENCE」を運営している。TEDx は TED の精神である「ideas worth spreading」のもと、TED の承認を得て、世界各地で自主的に運営されている TED の派生イベントのこと。

・JET プログラム「クリスマスチャリティーイベント」

JET プログラムとは、「語学指導等を行う外国青年招致事業」(The Japan Exchange and Teaching Programme)の略称であり、総務省、外務省、文部科学省及び財団法人自治体国際化協会の協力の下、地方公共団体が実施している事業で、ALT や CIR(国際交流員)が構成する。



12 月 7 日・8 日、神戸地区の JET プログラム参加者の会と本学が合同でクリスマスチャリティーイベントを開催した。JET プログラム参加者の会の方約 50 名と、本学学生約 20 名が参加し、キャンパススクエア「ユニバードーム」にてクッキー等の販売やクリスマスキャロルの合唱が行われた。チャリティーイベントの収益で購入したプレゼントが「長田こどもホーム」のこどもたちに贈呈され、プレゼントの残金は神戸市児童養護施設連盟に寄付された。

■荻野スカラシップの創設 と国際交流の推進

国際的に活躍しておられる本学卒業生の荻野正明氏の協力を得て、チャレンジ精神が旺盛な留学生を支援する「荻野スカラシップ」を創設した。この制度は 1 人当たりの奨学金の上限額が 250 万という、国内では他に例を見ない充実した内容となっている。11 月 9 日に第 1 期派遣生への授与式が行われた。北京大学 (中国)、サンクトペテルブルク美術大学 (ロシア)、サラマンカ大学 (スペイン) に留学予定の学部生・院生に、派遣留学決定書が授与され、留学費用にあてられることとなった。

また、本学では、教育・研究における国際交流の推進を図っており、海外の交流協定締結大学等との教員交換、学生の派遣・受入れ、学術研究交流や、各種国際交流活動の支援などを実施するとともに、「広い国際的視野に立って活躍できる人材の育成」を教育方針として掲げ、学生・院生の海外留学を積極的に支援している。

今年は下記の 2 大学と交流協定を、1 機関と学術協定を締結。今後も交流協定等の拡充を図っていく。

- ・ 3 月 雲南民族博物館との学術協力協定
- ・ 5 月 ローマ大学サピエンツァ (イタリア) との交換協定
- ・ 6 月 サラマンカ大学 (スペイン) との交流協定

■各種講演会を開催

今年も様々な分野で第一人者として活躍されている方々の講演会を開催し、本学関係者のほか、一般の方々にも多数の参加をいただいた。

・神戸市立博物館連携特別講演会の開催

(1)10月20日、本学ロシア学科北見准教授による講演会「革命前夜のロシアにおけるフランス絵画の受容とその波紋」を開催。

(2)11月27日、ドイツ・グライフスヴァルト大学教授であるミヒャエル・ノルト氏による講演会「17・18世紀のオランダ絵画ブームとヨーロッパの芸術市場」を開催。

・4月12日、協定締結校であるイギリスのリーズ大学准教授であるグレアム・デイビス氏による特別講義「Iranian/US relations and coercive diplomacy」を開催。

・6月27日、インディアナ大学教授であるクリストファー・I・ベックウィズ氏による講演会「The Greeks and Early Buddhism」を開催。

・7月12日、イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校教授のロバートティエルニー氏による講演会「Momotaro's Adventures in the South Seas」を開催。

・7月13日、スタンフォード大学准教授であるアルト・アンティッラ氏による講演会「On the Phonology of Auxiliary Reduction in English」を開催。

・7月19日、早稲田大学オープン教育センター講師である吉田浩美氏による講演会「バスク語とバスク文化」を開催。

・11月19日、NPO法人テラ・ルネッサンス理事長である小川真吾氏による講演会「子ども兵問題と私たちができること」を開催。

・11月29日、京都大学東南アジア研究所特定准教授であるネイサン・バデノック氏による講演会「ラオスの民族と言語状況の多様性」を開催。

・12月2日、画家であり、TEDxKyoto2013のプレゼンターであるBrain Williams氏による講演会「A Landscape Painter in Today's World」を開催。